

# 事故防止連絡会の概要

# 危険物・高圧ガス事故防止連絡会の背景

危険物施設の事故が増加傾向にあり、官民一体となった事故防止対策の推進が必要。

平成15年 総務省消防庁

「危険物事故防止に関する基本方針」

「危険物事故防止アクションプラン」

平成19年 仙台市危険物事故防止連絡会 開催

「仙台市危険物事故防止に関する基本方針」

「仙台市危険物事故防止アクションプラン」策定

平成21年 仙台市危険物・高圧ガス事故防止連絡会 開催

(以後、毎年開催)

# 危険物・高圧ガス事故防止連絡会の目標

事故件数が増加に転じる前の水準まで事故を低減する

危険物事故・・・平成7年の水準

➤ 火災0件、漏洩2件

高圧ガス事故・・・平成12年の水準

➤ 高圧ガスボンベ破裂1件

液化石油ガス一般消費者等の事故0件

# 事故防止の推進方策

発生してしまっただ重事故の分析・原因究明・対策の水平展開  
→ 類似の事故を防止することが可能

しかし、・・・新たな形態の事故については、必ずしも効果的とは限らない。

そこで、・・・「**ハインリッヒの法則**」を活用し、シンプルで平易な**手法**により、新たな形態の事故も含めて包括的に事故防止を図ることを提言。

# ハインリッヒの法則

## 労働災害における経験則

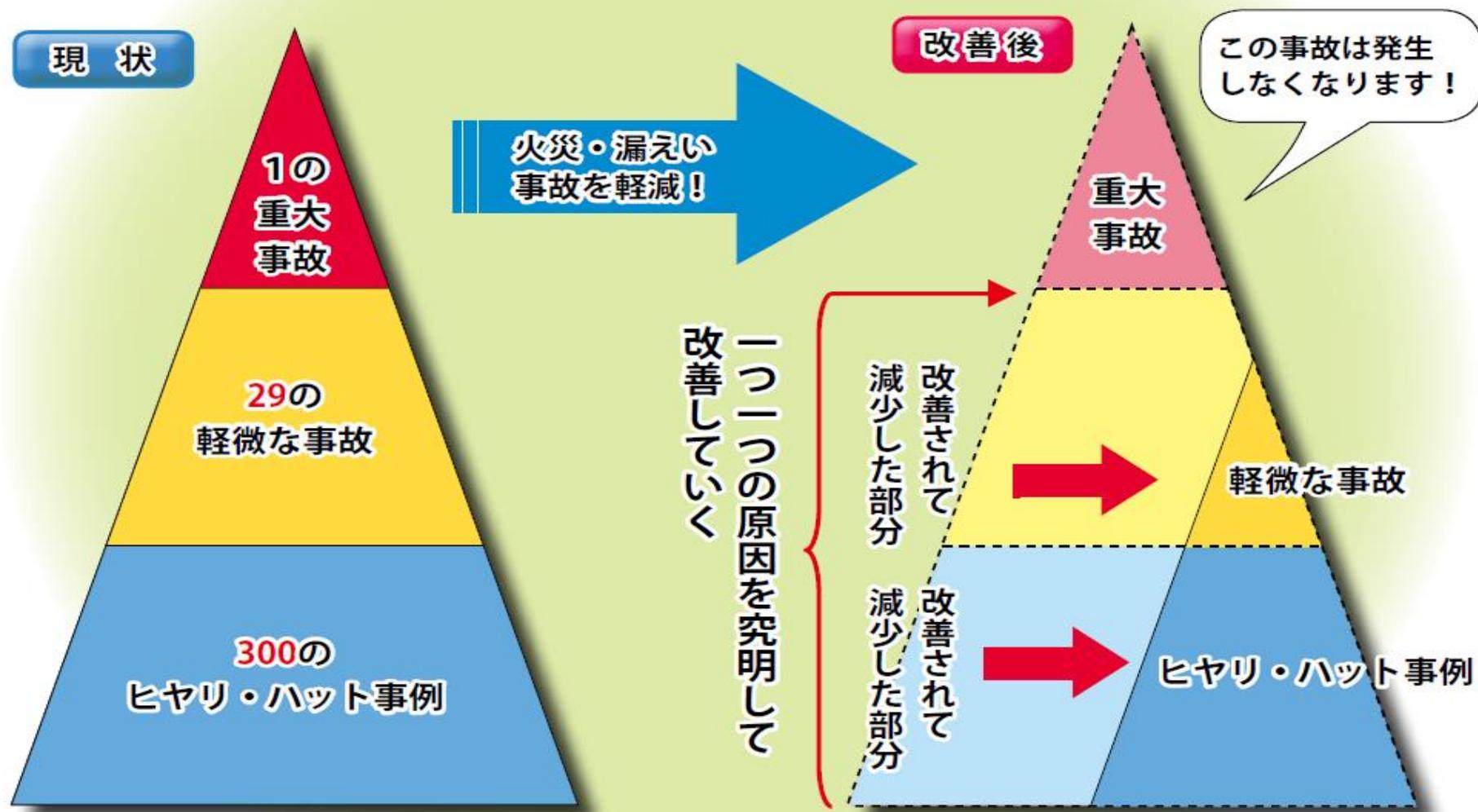
【ハーバード・ウィリアム・ハインリッヒ】  
アメリカの損害保険会社で技術・調査に携わる  
1931年著「災害防止の科学的研究」（1951邦訳）

「1の**重大事故**の背後には29の**軽微な事故**が隠れており、その背後には300の**ヒヤリ・ハット**事例が隠れている。」

言い換えると・・・

「日常業務の中で、ヒヤリ・ハット事例や軽微な事故に即座に対処して改善し、その件数を減らせば重大な事故の発生を防止できる。」

# ハインリッヒの法則により事故が減少するイメージ



# 手法の導入 & 留意事項 ①

- 1 **社員全員**が手法の意義を理解し、日常業務の中で地道かつ徹底して取り組みます。
- 2 「誰でもミスはするし、**ミスをゼロにすることはできない。**」という前提に立ち、ミスをした場合には過大なペナルティを与えず（厳しく責めすぎない）、むしろ教育・訓練の機会と捉えて適切に対処できる体制（**社風**）を構築します。
- 3 軽微な事故やヒヤリ・ハット事例に適切に対処することにより効果的な対策が取られた場合には、何らかの**プラス評価**にするなどの体制を構築します。（ミス自体はマイナス要因ですが、ミスを逆手に取り、報告や対応の迅速さ・適切さ、重大事故の未然防止に対する寄与等をプラス要因として評価します。）

## 手法の導入 & 留意事項 ②

- 4 小さな異常や前兆現象を敏感に感じ取る感覚を磨くことができるよう、熟練者を講師とした教育・訓練を行うなど、**世代を超えたりスクセンスの伝承**を推進します。
- 5 ヒヤリ・ハット事例などに対応（改善）した結果について、適切に記録し社内で**情報を共有**します。
- 6 この手法が適切に機能していることを定期的に**チェック**し、必要に応じて**見直し**を行います。

※ もちろん、過去の重大事故事例に基づく対応も適切に取られていることが前提です。